慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	英文論文執筆推進のための連続講習会1, 2, 3
Sub Title	
Author	小嶋, 祥三(Kojima, Shozo)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2007
Jtitle	活動報告書 Vol.1, (2007.) ,p.20- 20
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章：シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20080300-0020

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

6 英文論文執筆推進のための連続講習会①②③

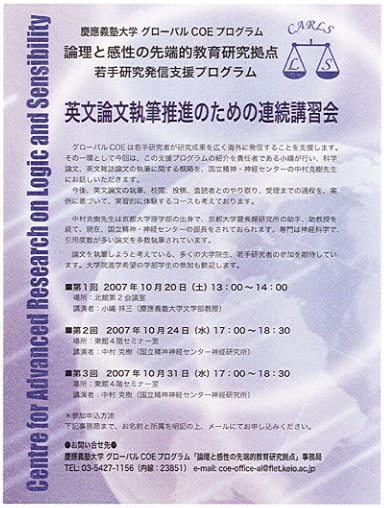
開催日　2007年10月20，24，31日
企画班　研究発信支援プログラム
企画者　小嶋祥三
講演者　中村克樹（国立精神神経センター神経研究所）、小嶋祥三（塾内）

表題の目的で、2007年10月20日、24日、31日に講習会を実施した。１回目はプログラム責任者の小嶋が、２、３回目は国立精神神経センターの中村克樹氏が講師である。各回90分で、参加者は慶応義塾および他大学の大学院生を中心に約30名であった。

小嶋は国内外への出張や英文校閲、雑誌掲載への補助に関する事務手続きを説明した。続いて、雑誌のimpact factor（IF）と各論文の引用度数の検索法を会場で供覧した。IFは雑誌のレベルの目安になり、論文を投稿するときの参考になることを紹介した。引用度数の検索は、このような点を考えたことがなかった若手研究者の意識改革の意味で実施した。

中村氏は論文、特に多くの人が目を通す英文論文を持つことの重要性を語った。科学は一人で行うものでなく、多くの研究者が知識を共有することで発展する。もし論文を執筆しないなら、その発展に寄与できない。和文論文と比較して英文論文は多くの研究者の目に留まりやすい。それゆえ、極力英文で執筆すべきだ、という主旨であった。また、IFだけでなく、掲載論文がどれほど長く引用されるかという項目にも注意すべきなど、IFのもつ問題点も指摘した。中村氏はさらに、研究成果の発表を競うあまり、不正を行う例があることを紹介し、そのようにならないよう注意を喚起した。

最後に小嶋が補足し、英文を書くことは能力でなく習慣の問題であること、英文論文を持つことが研究者としてやっていくことの基本的な条件であることを話した。以下は霊長類研究所にいた某氏の言である。正しい英語か分りませんが、Publish, or perish!　（小嶋祥三）


Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility

慶應義塾大学 グローバル COE プログラム
論理と感性の先端的教育研究拠点
若手研究発信支援プログラム

CARLS

英文論文執筆推進のための連続講習会

グローバル COE は若手研究者が研究成果を広く海外に発信することを支援します。その一環として今回は、この支援プログラムの紹介を責任者である小嶋が行い、科学論文、英文雑誌論文の執筆に関する概略を、国立精神・神経センターの中村克樹先生にお話しいただきます。
今後、英文論文の執筆、校閲、投稿、査読者とのやり取り、受理までの過程を、実例に基づいて、実習的に体験するコースも考えております。

中村克樹先生は京都大学理学部の出身で、京都大学霊長類研究所の助手、助教授を経て、現在、国立精神・神経センターの部長をされておられます。専門は神経科学で、引用度数が多い論文を多数執筆されています。

論文を執筆しようと考えている、多くの大学院生、若手研究者の参加を期待しています。大学院進学希望の学部学生の参加も歓迎します。

■第１回　2007 年 10 月 20 日（土）13：00～14：00
場所：北館第２会議室
講演者：小嶋 祥三（慶應義塾大学文学部教授）

■第２回　2007 年 10 月 24 日（水）17：00～18：30
場所：東館４階セミナー室
講演者：中村 克樹（国立精神神経センター神経研究所）

■第３回　2007 年 10 月 31 日（水）17：00～18：30
場所：東館４階セミナー室
講演者：中村 克樹（国立精神神経センター神経研究所）

＊参加申込方法
下記事務局まで、お名前と所属を明記の上、メールにてお申し込みください。

●お問い合せ先●
慶應義塾大学 グローバル COE プログラム「論理と感性の先端的教育研究拠点」事務局
TEL: 03-5427-1156（内線：23851）　e-mail: coe-office-all@flet.keio.ac.jp